

令和2年2月 4日

南の風 330

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

もう一つ榎本先生と日立戸塚オレンジギャルズの関係で、1980年代にたいへん勉強になったことがあります。

それは、全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会（1971年第1回が代々木第2体育館でおこなわれ、1987年まで春休みに開催されていた）と関連します。この大会は現在行われているウインターカップ（2017年より全国高等学校バスケットボール選手県大会と名称変更）の前身です。

選抜優勝大会が春休みの期間に開催されていた関係で、毎年出場するチームが調整と練習試合を兼ねて、日立戸塚の体育館に集結するのです。

榎本先生の配慮で、その様子を見学させてもらったのです。参加したのは全国大会の常連校として、関東では大妻、明星学園、東京成徳短期大学附属、東亜学園、以上（東京）、昭和学院（千葉）、宇都宮女子（栃木）、他の地方では、市立沼津（静岡）、市邨学園（愛知）、薫英高等学校（大阪）、甲子園学院（兵庫）、夙川学院（兵庫）、中村学園女子（福岡）、などのいずれ劣らぬ強豪校でした。

昨年のウインターカップで、通算22回目の優勝を果たした桜花学園（当時は、名古屋短期大学附属高校、通称『名短』）は、1988年に初優勝するのですが、名將井上 眞一先生はまだ守山中学を指揮（1980年からの全中8連覇のうち、6連覇まで導いた）していましたので、参加していませんでした。

榎本先生から、選抜優勝大会に出場する強豪高校のコーチを紹介していただき、何人かのコーチの方に戦術や、練習方法をお聞きすることができました。

また実際の練習ゲームを観戦して感じたことは、トランジションの速さと速攻の巧みさでした。『切り替え時の5人の意識とボールを前に運ぶスピード』という、この二つのスキルは集結したすべてのチーム備わっていた気がします。

このようにして全国トップレベルのゲームやスキルを間近で見学することができ、貴重な経験を積ませていただきました。

榎本先生には感謝しても感謝しても、感謝のしようがありません。本当にお世話になりました。

もう一人たいへん印象に残っている方がいます。『矢田香子先生』です。私がお会いしたのは、愛知県の、「岡崎子どもバスケットボール教室」の総監督をされている頃でした。泉野先生と私が始めた、『マリオンボールカップ』に招待した折のことです。

矢田 香子先生は、短大の教授を経てスポーツ振興に力を尽くされ、1964年の東京五輪で日本のバスケットボールが惨敗したのをご覧になり、「日本のバスケが世界に通じるためには、体づくりからやり直すべきだ」と言われ、バスケットボールの普及に尽力されるようになったそうです。

その後、岡崎子どもバスケットボール教室を立ち上げ、愛知県のみならず全国のミニバスケットボールの発展にも寄与されました。

また矢田先生は日本で初めて、女性公認審判として「天覧試合」で主審を務め、昭和天皇の前で笛を吹かれたそうです。次号では矢田先生の指導方針の一端を紹介します。